



形態耳科学

Morphology in Otology

東京大学名誉教授 野村恭也 (著)

A4判 288頁 2006年

定価 21,000円 (本体 20,000円 + 税 5%)

中外医学社・刊

(☎ 162-0805 東京都新宿区矢来町 62 Tel 03-3268-2701)

「形態耳科学」序文冒頭に「耳という器官の形態的な美しさ、神秘さに惹かれ私は耳科学に興味を持つようになった」と著者はその思いを述べている。この研究の契機となった恩師の切替一郎先生、Schuknecht 先生との出会いやそこから生まれた多彩な学問的な成果をわかりやすくていねいに示した本書は、またこの国のこの分野の研究の流れも自然に理解できるように仕組まれており読むと楽しみが起る。

本書は「耳についての概説」、「外耳」、「中耳」、「内耳」そして「内耳疾患」など章をたてて構成されている。そしてそのおのおのの章のなかで著者は新たな視点からの研究課題をそれぞれ明示して自前の組織標本写真と明快な論旨でこれらをまとめているので、この点からみれば本書は著者の研究史といえる。そしてまた新しい型の耳科学の教科書ともいえよう。また載せられている組織写真はいずれも美しい。このことは「研究は臨床との関連において行うこと。形態学ではとに角綺麗でなければならない」という Schuknecht 教授の持論と著者の関係する研究室の力強さを知らされる思いがする。そして著者はつねにこれら研究の成果を“この 40 年間一耳鼻咽喉科医師が臨床の傍ら”で行ってきたものという姿勢を貫いていることが、また本書を読み応えあるものになっている。もちろんこの美しい写真の多くは著者の手がけた研究の過程で収集されたものであり、そしてその解説も本文もその間に生まれた透徹した考えが十分示されているうえに、人々との交流や折々の情況も加わり興味ぶかく読みやすい。

なお率直な疑問や推論も個性的で面白い。いわゆる、東大・シュクネヒト・ハーバード学派の討論を垣間みる思いがする。

「内耳液」の章は興味あふれている。アセチルコリンエステラーゼ (AChE) の酵素活性の発見から canaliculi perforantes Schuknechtii 発見と Schuknecht channel の愛称の挿話は、活力ある研究室の雰囲気が見えとともに、著者の組織染色法への、以後の多くの創意工夫とそれにつながる情熱が理解される。この問題は絶妙な染色技法ともいえる考えで、素晴らしく、高い評価を得ている。これは本文に詳しいがそれはいまなお多くの研究者に“ひらめき”を与えていると思う。また研究に対する著者の自由な発想と態度は感銘を呼ぶ。

著者の初期の研究活動の主点は内耳血管の解明にあったと聞く。本書の「血管」の項もその熱意を知らされる。墨汁注入法から脱皮して新しい染色法を探す過程でアルカリフォスファターゼ染色法を見出し、内耳微小血液循環を見極めようとした経緯が詳しく知らされる。蝸牛を取り巻くラセン靱帯と血管条の血管網そしてラセン血管などが、ともにコルチ器の感覚細胞環境の基を形成していることを、いま本書の組織写真はあます所なく知らせてくれる。本書の美しい細かいループ状の内耳微小血管群の像は神秘的で、私達に大切な視点とヒントをここでも与えてくれる。

著者は臨床医の姿勢を崩さない。これは内耳疾患の原因追求や対応の根拠を形態学から求めていくときの姿勢にもみられる。例えば、突発性難聴の追跡も他書にみられぬユニークさに溢れている。内耳の血管構築や循環障害がその原因とされていた時代でウイルス感染を指摘した Schuknecht の報告に端を発し、実験的にウイルス性内耳炎をつくり確証を得ようとする熱心さは本書を素晴らしいものとし、いまでもその基本は生きているのを知らされる。ヒト側頭骨病理でみられたウイルス性感染による蓋膜所見 (rolled-up 像) に酷似した所見を実験的に確認し得たことと、その経緯を詳らかに示されていることを多としたい。またこの「内耳疾患」の章では多くの日常臨床で見られる疾患を組織写真から勉強できるのは有り難い。

レーザーの臨床応用の経緯を具体的に、写真で局所解剖的に示しているのも本書の特長である。臨床例として良性発作性頭位めまい症に半規管レーザー照射を安全に行う道筋や外リンパ瘻症例への卵形囊斑レーザー照射の開発などを、実験を基として緻密に行い、安全に容易に行い得る臨床的方法を示したことは画期的で素晴らしい。

特に本書の組織写真はいずれもそれぞれ美しく見えない。これをよくよく熟視する人にはこれらからもなお新しい知見を見出す僥倖が与えられるかもしれない。それはどこか “Pathology of the Ear: H. F. Schuknecht” をも思いださせる。この本はみればみる程に、読めば読む程に耳科学を自然に身近にし、面白くする大切な一冊であると思う。お薦めしたい。

(福岡大学名誉教授 曾田豊二)